



中国の民話 / 訳 君島久子

イラスト カトウソウ(ピースリーピース)

それは、いつのころか、てんで

見とうもつかないほどの大むかし。

中国のある村に、

年よりのふうふが、すんでいました。

二人は、

おばあさん「子どもがほしい、ほしい」

とおもっていました、

すっかりこしがまがつても、

まだ子どもは生まれません。

ある日、おばあさんは、

あんまりさびしいので、

いけのほとりで一人、

なっていました。



すると、いけの中から
白いかみのろう人があらわれて――

ろう人「このくすりをあげよう。

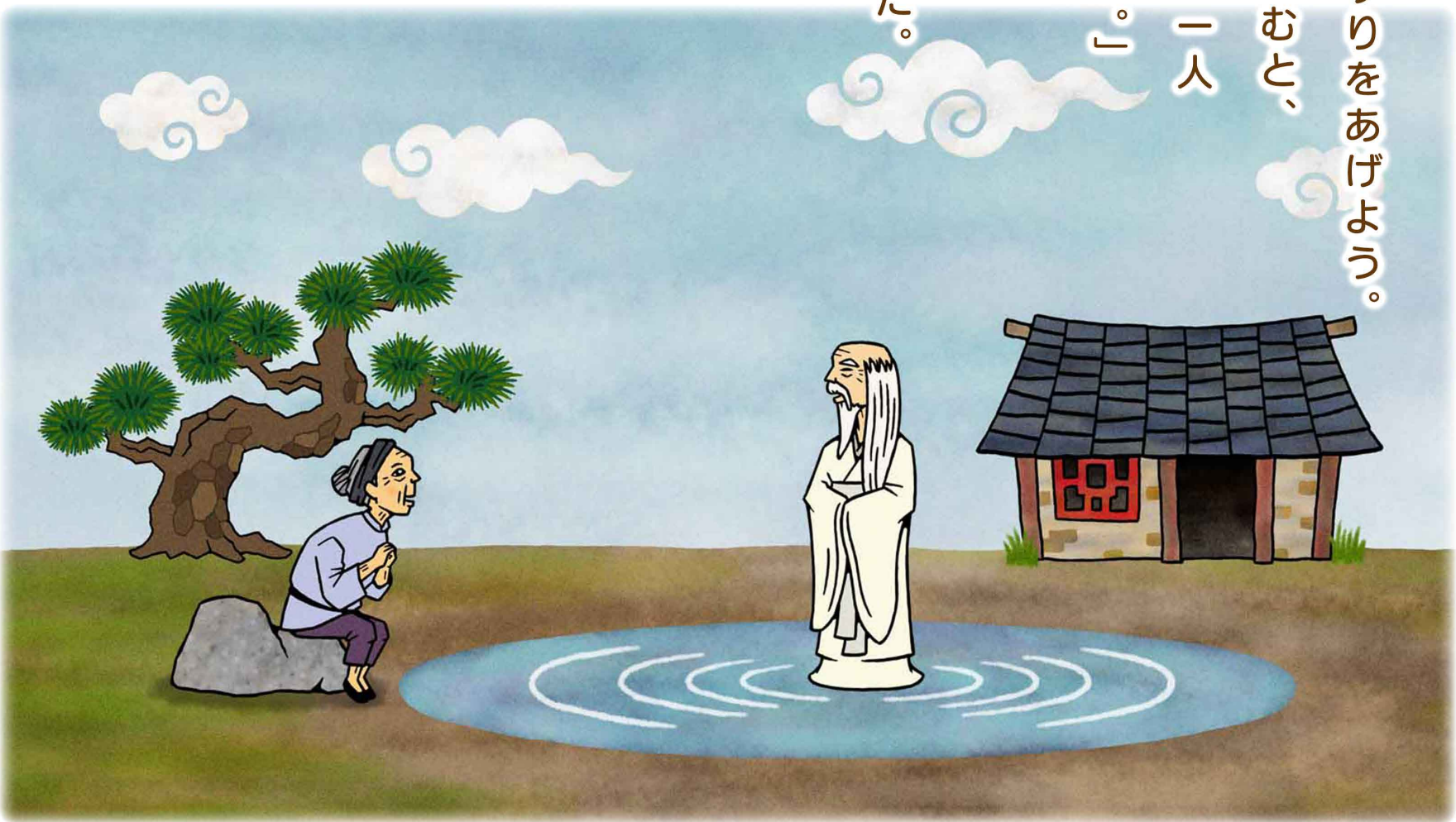
一つぶのむと、

子どもが一人

生まれる。」

と、くすりを

九つぶくれました。



おばあさんは、うちにかえると、

もうまちきれなくなっで、

くすりをいっぺんにのんでしまいました。

(びっくん)

すると——、

(オギャー、オギャー！)



ある日、とっぜん、

九人の赤んぼうが生まれたのです。

ついた名まえは、

「ちからもち」

「くいしんぼう」

「はらいっぱい」

「ながすね」

「さむがりや」

「あつがりや」

「ぶつてくれ」

「きつてくれ」

「みずくぐり」



はらいっぱい



ながすね



あつがりや



ちからもち



くいしんぼう



きつてくれ



ぶつてくれ



さむがりや



みずくぐり

さて、この九人のきょうだいはいは、

かおも、からだつきもそっくりに大きくなりました。

ちようどそのころ、
みやこでは、大へんなさわぎが
もち上がりました。

(ゴーン)

王さまのきゆうでんの
一ばん大きなはしらが、
とつぜん、
たおれてしまったのです。

そこで、王さまは、
くにおふれを出しました。



王さま「はしらをもとどおりにできたものには、
のぞみのほうびをとらせる。」

このはなしは、九人のきょうだいの
うちにもつたわってきました。

そこで、きょうだいたちは、そうだんしました。

きょうだい1「どうする、ほうびだつてよ！」

きょうだい2「のぞみどおりのほうびつて、

どういうこと？」

きょうだい3「いろんなものがもらえるつてよ！」

きょうだい4「なにたのんでもいいの？」

きょうだい5「どうしよう。だれがいく？」

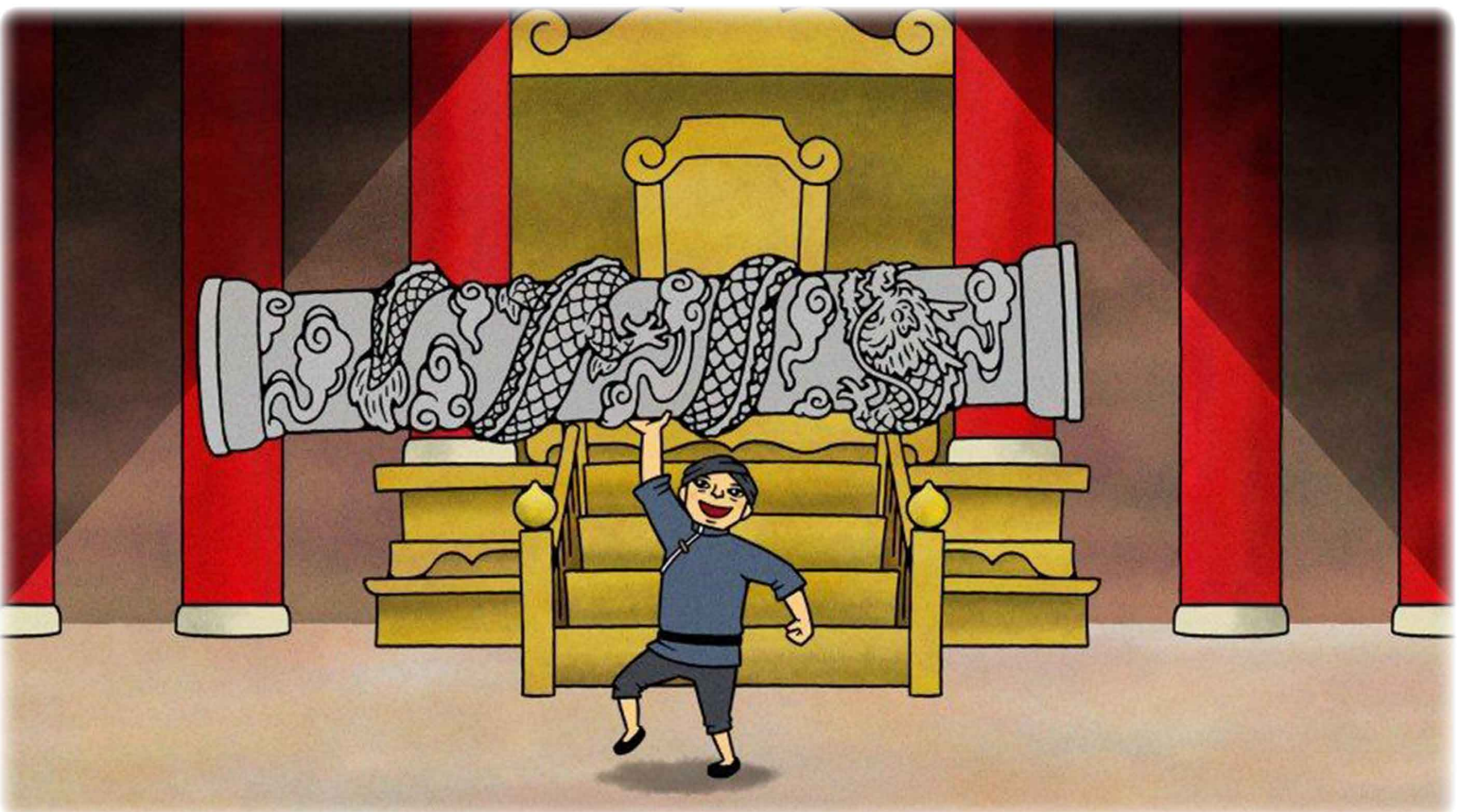
きょうだい6「ちからもち、いつてくれ！」

ちからもち「よしきた！」



ちからもち

ちようど、よ中にちからもちは
きゆうでんにつきました。



そして、はしらをひょいっともち上げ、
もどどおりになおして、かえっていきました。

あくるあさになって、

王さまは、おどろいたのなんの、

王さま「いったい、だれがなおしたのじゃ!？」

ところが、九人きょうだいの一人が

なおしたときいても、王さまはしんようしません。

王さまは、大きなおかまをいくつもすえて、

ごはんをいっぱいたかせました。

王さま「もし、そのような力もちなら、
きつと、これくらいの大めしが
くえるはずじゃ。」

「だが、たべられなければ、
大うそつきのぼつとして、
ろうやにぶちごめー!」



このはなしをきくと、

きょうだいたちは、またそうだんしました。

きょうだい1「どうする、ろうやだつてさ！」

きょうだい2「え、ろうや？そんなばかな！」

きょうだい3「そんなわけにはいかないでしょ、

ごっちはなおしたのに。」

きょうだい4「どうしよう、どうしよう？」

きょうだい5「くいしんぼう、いってくれ！」

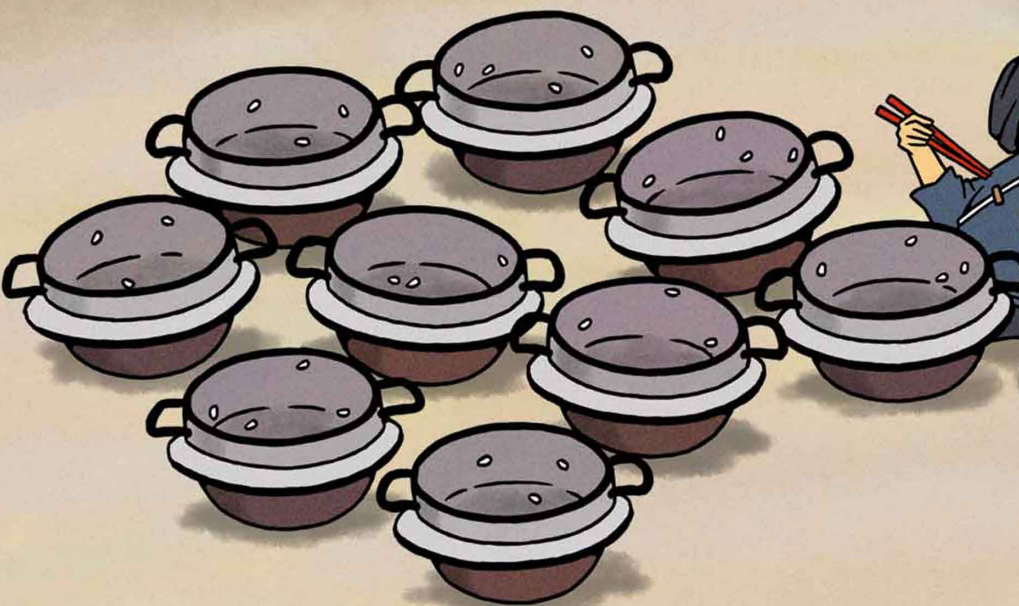
くいしんぼう「よしきた！」



くいしんぼう

くいしんぼうは、きゆうでんにしゅと、

くいしんぼう「ムシャムシャ、パクパク…」



大きなおかまのごはんを
ペロリとぜんぶ
たいらげてしまいました。



王さまはだんだんこわくなってきました。

王さま「あんなに力もちで

大めしくらいの男なら、

いまにきつと、わしをたおして、

このくにの王になるにちがいない。

なんとかして、やっつけなければ…」

そこで王さまはめいれいしました。

王さま「やつをつかまえてきて、

うえじにさせよー」

きょうだい1「どういうこと？」

うえじにだつてさー！」

きょうだい2「うえじにっつて、

うえてしぬってこと？」

なにいつてんの、あの王さまー！」

きょうだい3「どうする？どうする？」

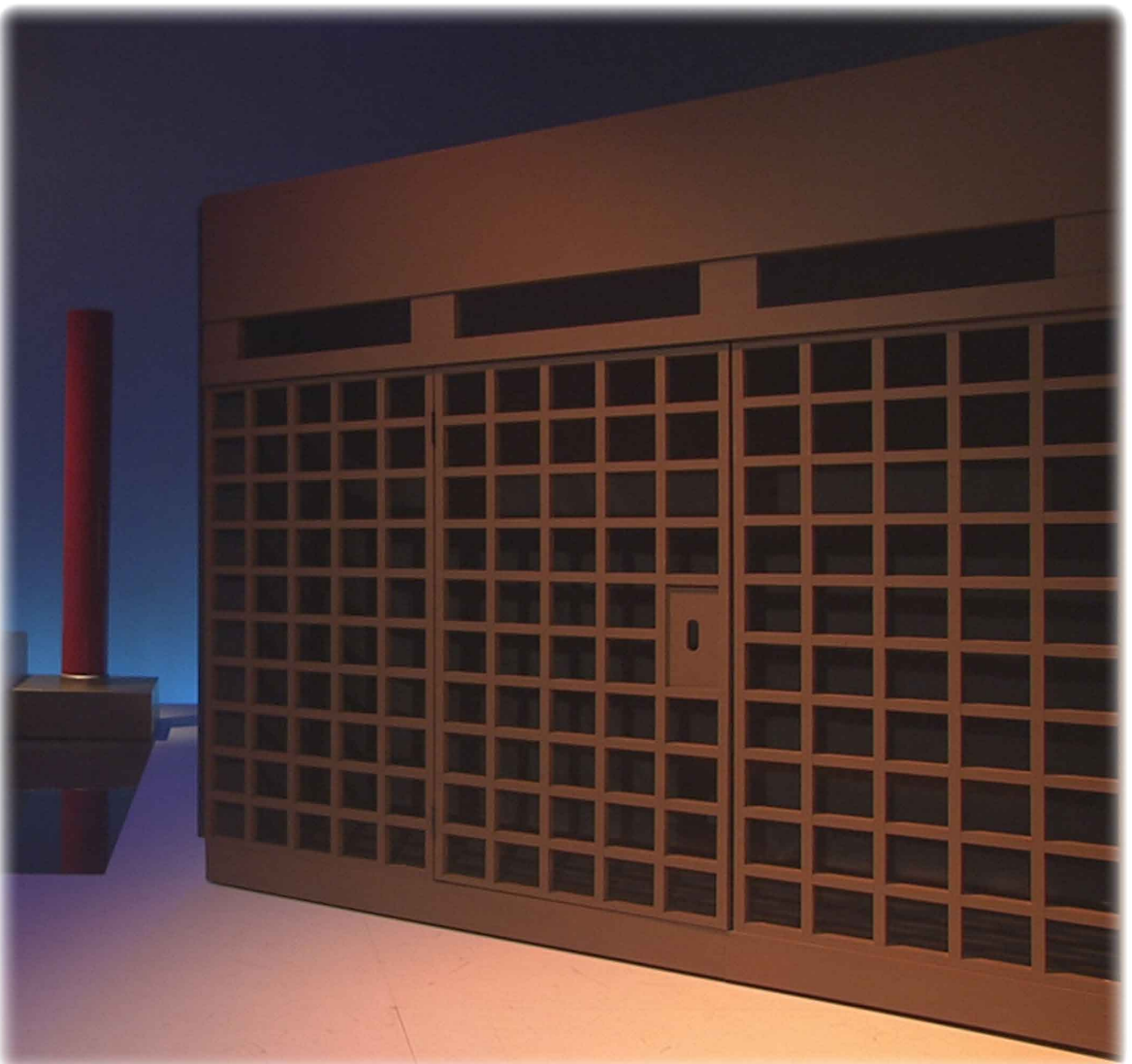
きょうだい4「そうだな…そうだー！」

きょうだい5「はらいっぱい、いらっへんねー！」

はらいっぱい「よしきたー！」



はらいっぱい



王さまは、はらいっばいをすぐさま
ろうやにとじこめました。

（バターン！ ガチャリ。）

そして、七日七ばん、

なに一つたべさせませんでした…。

(チュン、チュン)

8日目のあさでした。

王さま「もう、あいつもうえじにして

しまったことだろう。

わっはっは。どれ…。」

(ガチャリ！ ギー！)

王さま「うわっ！」

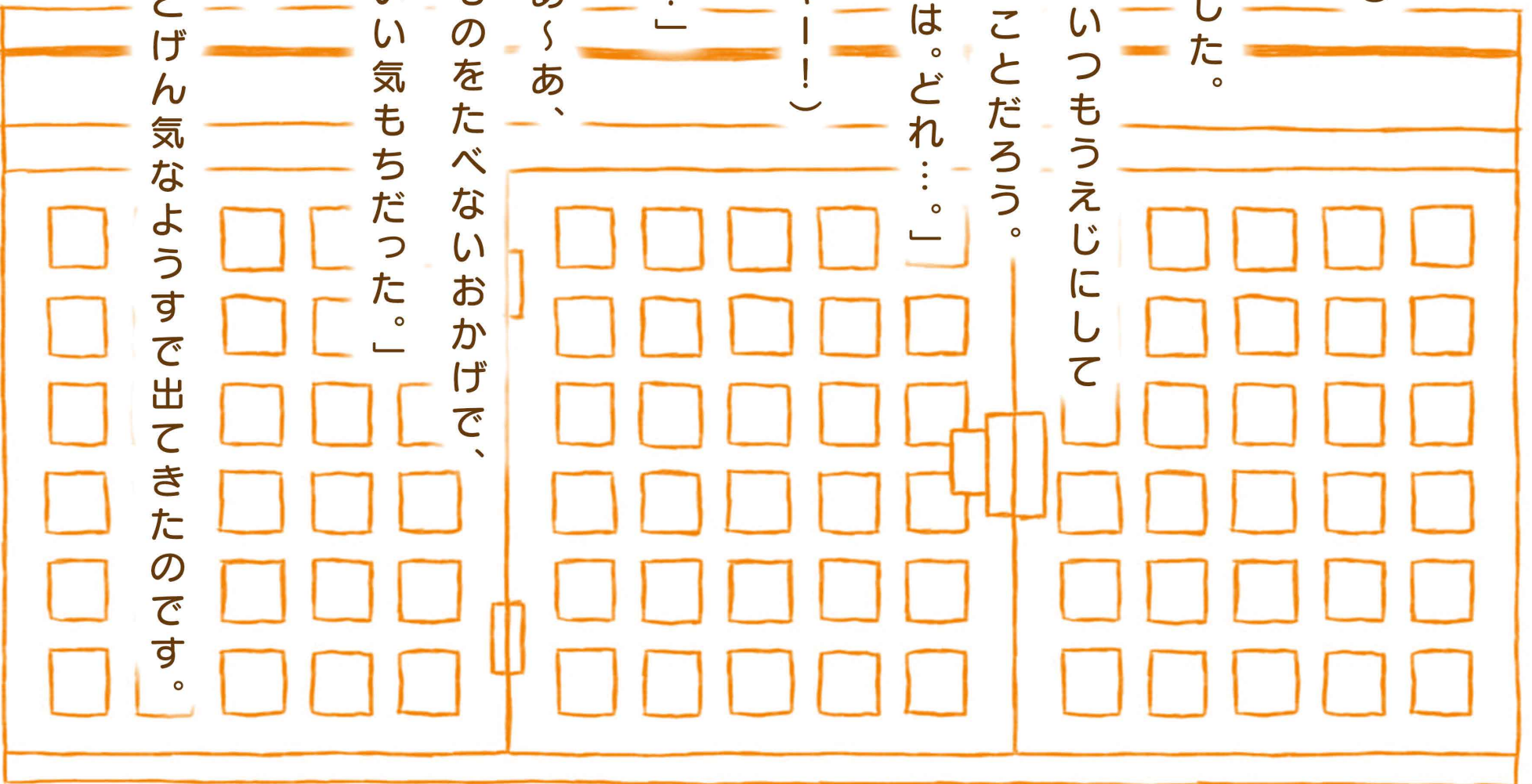
はらいっぱい「あくあ、

ものをたべないおかげで、

いい気もちだった。」

はらいっぱいは、

まえよりももっとげん気なようすで出てきたのです。



王さまはますますふあんになりました。

王さま「そうだ、やつを、」

たかい山のとっぺんから、

つきおとしてしまえー！」

きょうだい1「たかいところってどういうこと？」

きょうだい2「たかさってこと？ねだんじゃなくて？」

きょうだい3「たかいところだったら、いけるー！」

きょうだい4「じゃあ、おまえいこうかー！」

きょうだい5「ながすね、いってくれー！」

ながすね「よしきた！」

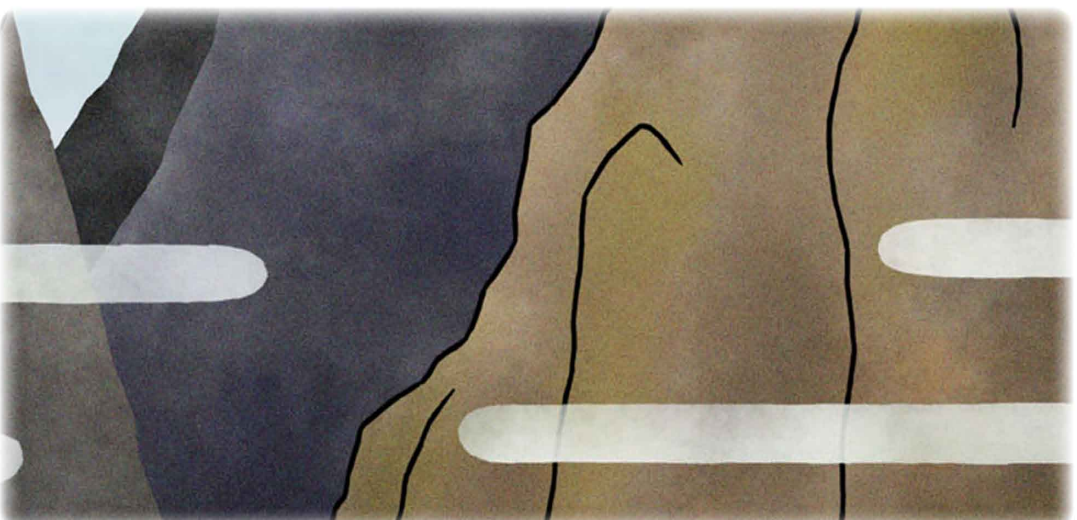


ながすね

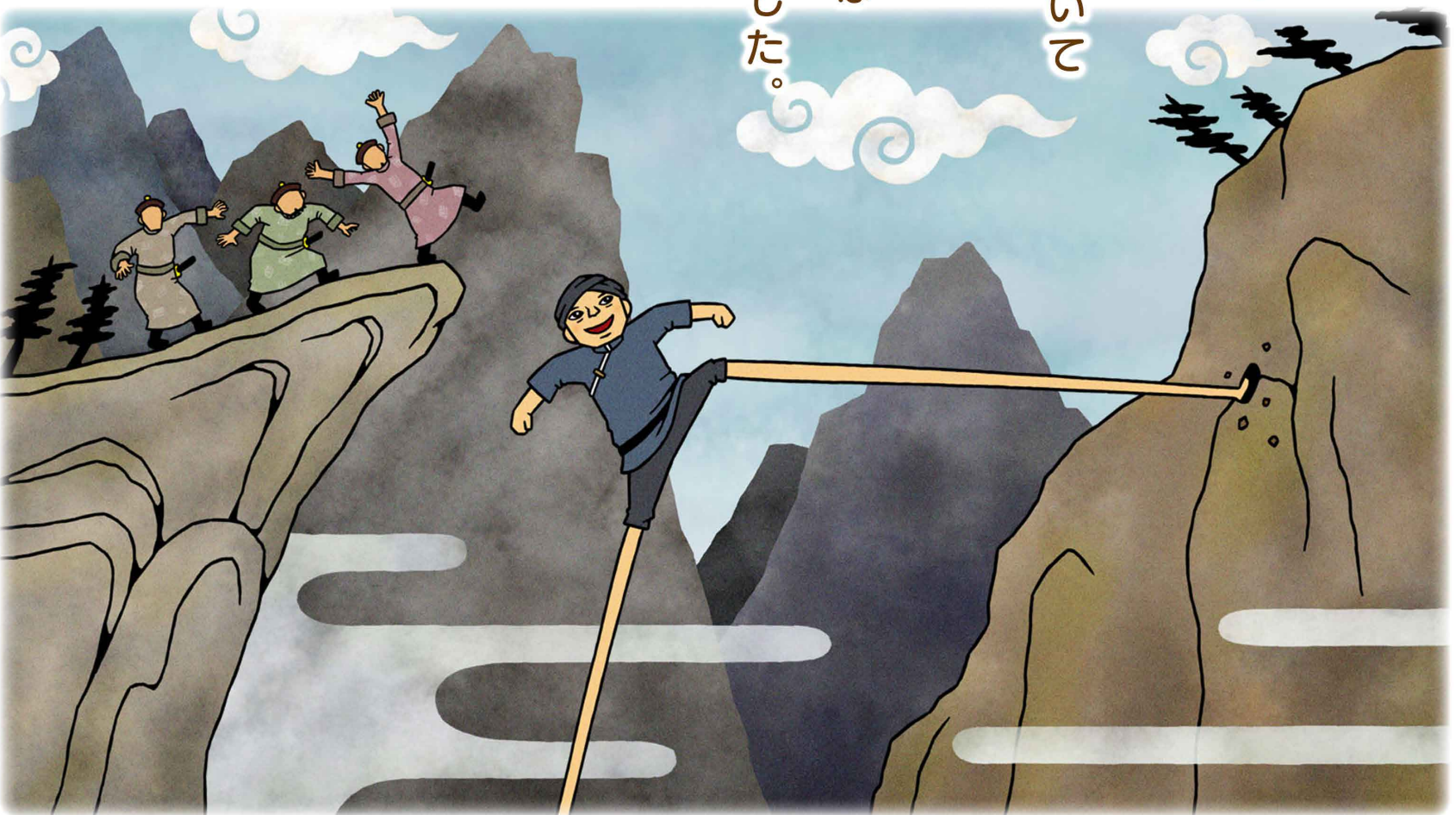
(ジュー - ジュー)

ながすねは、すぐさま、
いわ山のてっぺんに
つれてゆかれました。
そして、きり立つような
がけの上から、
どんとつきとばされました。

(ジューン)



そのときです。
ながすねのすねが、
しゅうつとのびて
たにぞこまでとどいて
しまったのは…！
こうして、王さまは
またしっぱいしました。



こわくて、こわくて、王さまはまったくねむれません。
これはもう、なんとしてでもこの男を
やっつけなければ…とかがえました。

♪ **王さま**「やつをやきころしてしまえ！」

♪ と、王さまがめいれいすると、

♪ やってきたのはさむがりや。

♪ ほのおの中でもやされた。でも…

♪ **さむがりや**「ああ、あつたかくて

いい気もち！」



さむがりや

♪ とうとうたきぎがもえつきた！

♪ **王さま**「やつをござえじにさせよ！」

♪ と、王さまがめいれいすると、

♪ やってきたのはあつがりや。

♪ ゆきの中にうめられた！…でも、

♪ **あつがりや**「ああ、つめたくて

いい気もち！」



あつがりや

♪ とうとうゆきがとけだした！

ぶつてもダメ、きつてもダメ、
きょうだいたちのまえに、
王さまのけいかくは
ことごとく
しっぱいします。
王さまは、
かんかんになって
めいれいしました。



王さま「やつをひつとらえて、

大きな川へほうりこんでしまえ！」

きょうだいたちは、またそうだんしました。

きょうだい「みずくぐり、いつてくれー！」

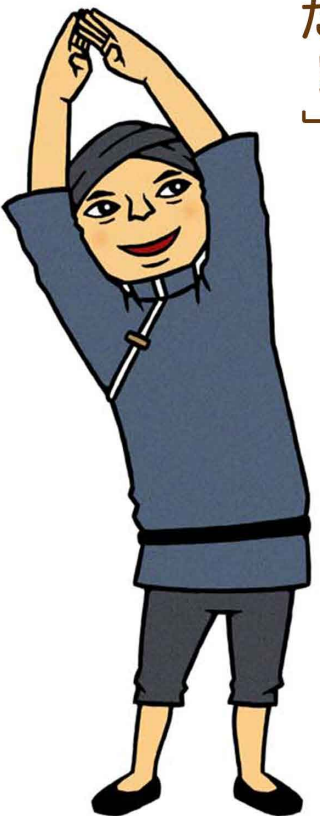
みずくぐり「よしきたー！」

みずくぐりは、

川におとされると、

まるでさかなのように

およぎまわります。ススイ、ススイ。



みずくぐり



そして、口いっぱい

川の水をふくんだかと

おもうと、

みずくぐり「ぷーっー」

王さま「あわわわ…うわ…っ！」



王さまは、水の力で
とんでいってしまいました。

この日から、人びとは

王さまからひどいしうちをうけることもなく、
たのしくへいわにくらしたとらうじやとびです。

おわり